

労災のない職場構築

～安心して働ける職場づくりを目指して～



1. 現状把握

ヒヤリハットを工程別に調査の実施

ヒヤリハット件数
全工程で59件発生！！

危険箇所	写真
<ul style="list-style-type: none"> ・検査室が狭い(unnecessaryなものが多い) ・作業エリアが狭く作業機への出入りが窮屈である ・台車が必要以上に大きい(乗せる台車の1.5倍) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・使用した台車をそのままにしてある (返却場所が決めていない) ・使用する台車自体も多く、台車で通路が確保されていない 	
<ul style="list-style-type: none"> ・使用した台車をそのままにしてある (返却場所が決めていない) ・検査室が狭い(unnecessaryなものが多い) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・検査室が狭い(unnecessaryなものが多い) ・作業エリアが狭く作業機への出入りが窮屈である ・検査前後品のケースが作業機の両脇の床付近にある為移動する際に見えづらい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・昇降台車のペダル部が通路側に向いている ・昇降台車が大き ・検査室が狭い 	
<ul style="list-style-type: none"> ・隙間が狭い為、切創手袋をすると隙間に手が入りこく ・刃片が取切にくい ・刃片の取り方の決まり 指導がされていない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・必要以上の無座服がおいてある ・床に粘着マットが敷いてあり 足を取られる ・通常の靴と無座靴の使用する場合に目印としての段差がある ・すのこが大きい 	



各工程色々な危険が見つかりました



職場にある危険の芽(リスク)を探す

2. 現状把握(ハード面)

リスクアセスメントシート

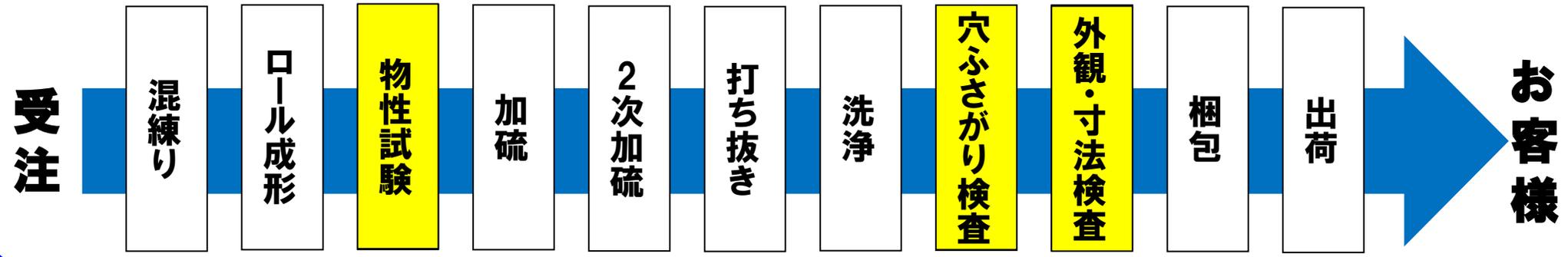
(1)けがの可能性		(2)けがのひどさ		(3)危険源へ近づく頻度		危険度		レベル	
①可能性が非常に高い(逃げられない)	6	①致命傷 (死亡、重篤)	10	①頻度が多い (何度も/日)	4	14~20点 重度の危険	4	要対策	
②可能性が高い (逃げられない方が多い)	4	②重傷 (身体障害等休業)	6	②ときどき近づく (1回程度/日)	2	10~13点 高度の危険	3	要対策	
③可能性がある (逃げられないこともある)	2	③ひどいけが (骨折・火傷等休業・不休)	3	③めったにない (1回/週)	1	5~9点 中度の危険	2	(要対策)	
④可能性が低い (逃げられないことはない)	1	④軽症 (切り傷・打撲等不休・微傷)	1			3~4点 低度の危険	1		

NO	作業の内容 (危険源の内容)	リスクの内容	けがの 可能性	けがの ひどさ	危険の 頻度	合計点	優先 順位	対策内容
1	検査工程	躓き・接触・転倒	4	3	4	11	1	レイアウト改善
2	ロール工程	挟まれ・巻き込まれ	2	1	1	5	3	
3	洗浄工程	洗浄工程で頭をぶつける	1	1	1	3	4	
4	通路	接触・転倒	2	2	2	6	2	

リスクが一番大きいのは
試験工程

製造工程

試験工程(検査)の改善を優先的に実施



リスクアセスメントシートでリスクを抽出

2. 現状把握(ソフト面)

	1点	2点	3点	4点	5点	合計点数	平均
	全く知らない	あまり知らない	ほぼ知っている	十分知っている	理解している		
保護具に関する知識	0人	2人	1人	2人	5人	40点	4.0点
非常ボタンの知識	0人	2人	2人	4人	2人	36点	3.6点
設備異常時の処置の理解	0人	3人	2人	4人	1人	33点	3.3点
体調管理に関する理解	1人	1人	1人	6人	1人	35点	3.5点
KYT活動の理解	0人	4人	1人	4人	1人	32点	3.2点



本来は5点満点でなければいけない項目であるが...

現状は3.5点

ハード・ソフト面共に不足しており、いつ労災が発生してもおかしくない状況

3. 対策のねらい所と目標

対策のねらい所

- ①危険箇所の撤去
- ②危険予測を行えるマインド
- ③一人一人の自立性向上

上記を念頭に置き、労災の無い職場を目指します。

目標

試験工程(検査)を2020年2月までに

①リスクアセスメントの危険の度合いレベル3を
レベル1(安全な職場)にする。

②グループ内の安全意識・知識の向上
(安全関連レベル評価4.5点)

労災の無い職場構築を目指す

4. 対策実施

③不要物を廃棄



整理整頓でムダを無くした

④レイアウトを改善:表示をして「見える化」



女性も大活躍

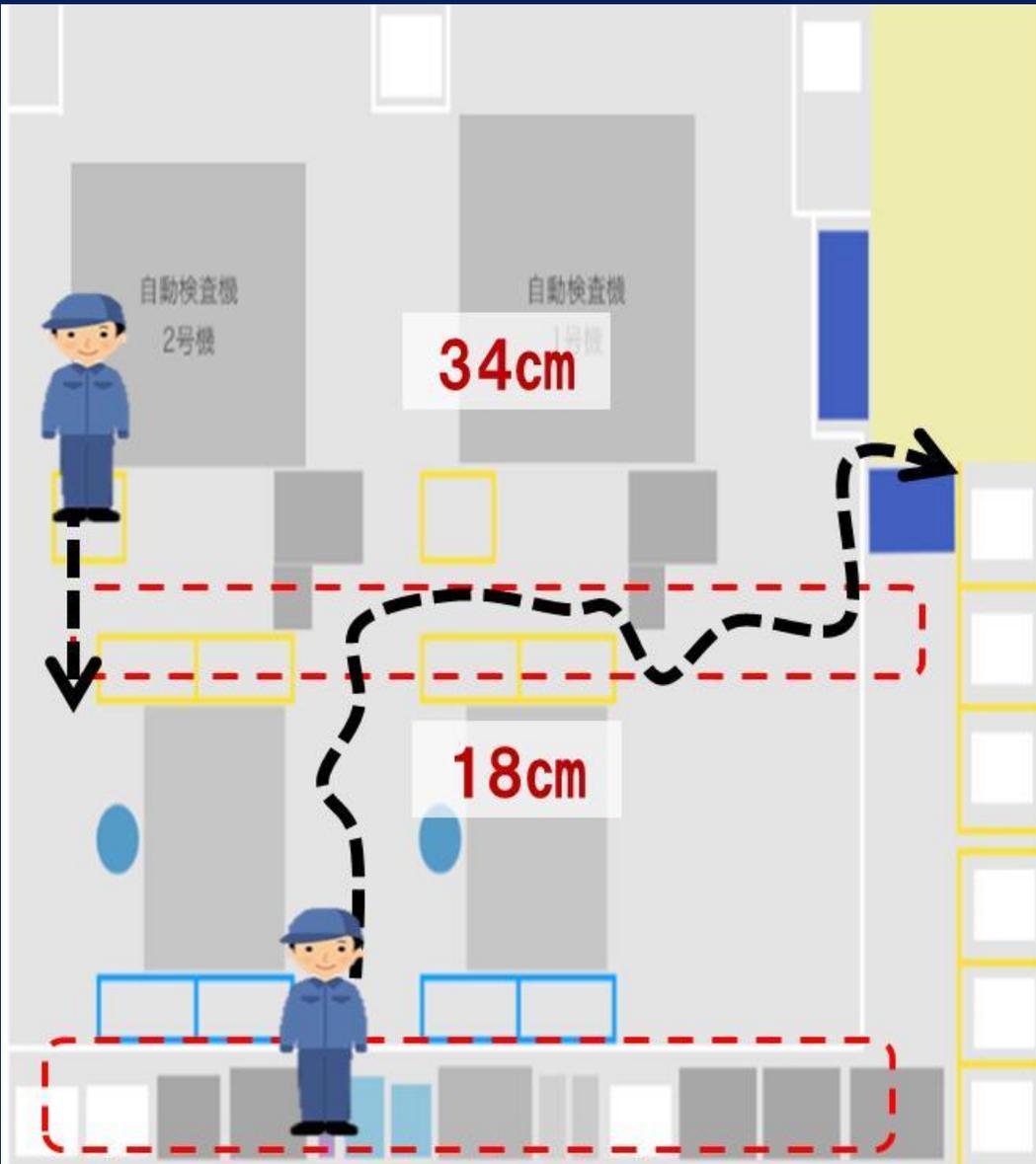


メンバー全員で改善

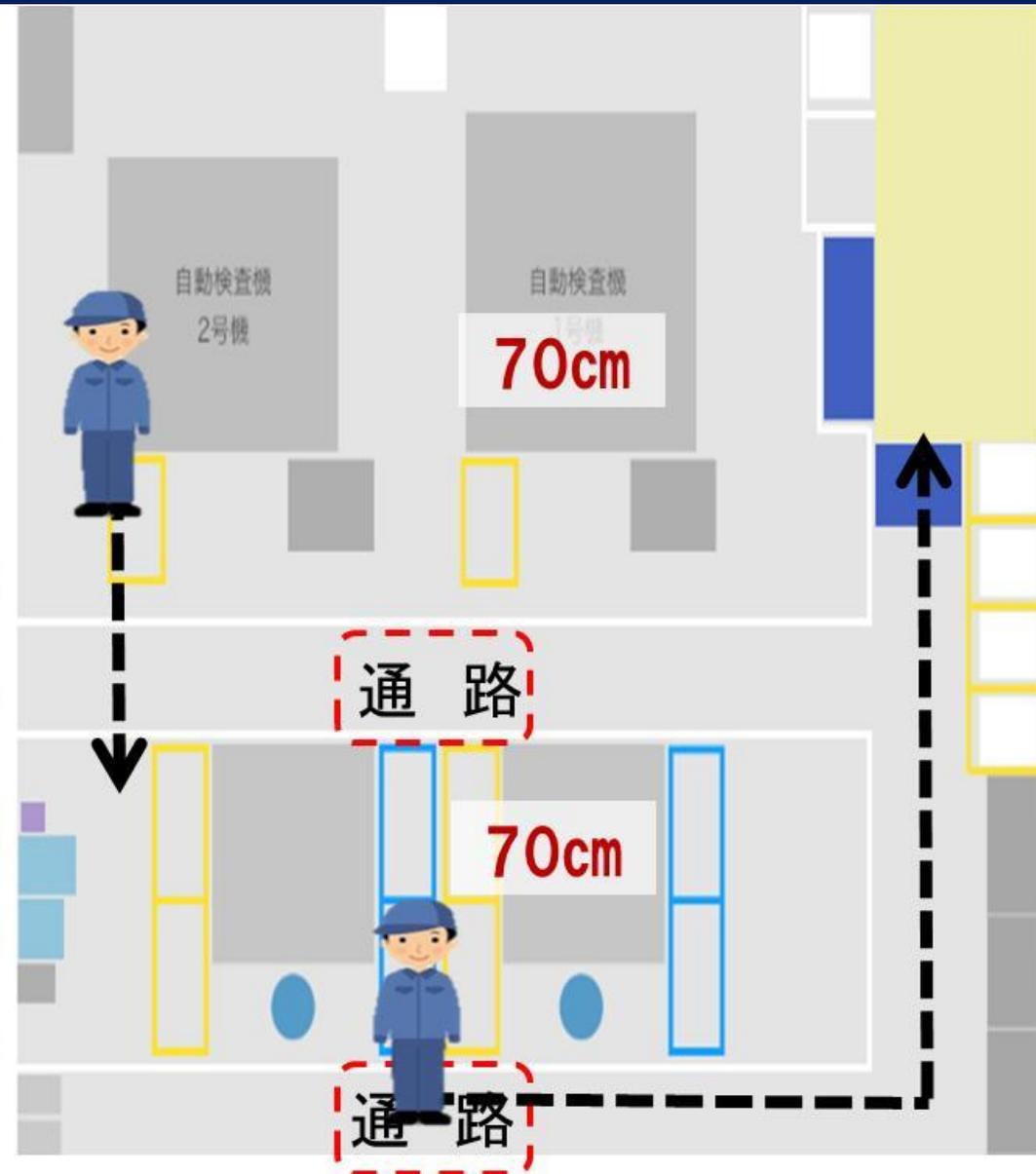
事前に選別した不要物を撤去

4. 対策実施

改善前レイアウト



改善後レイアウト



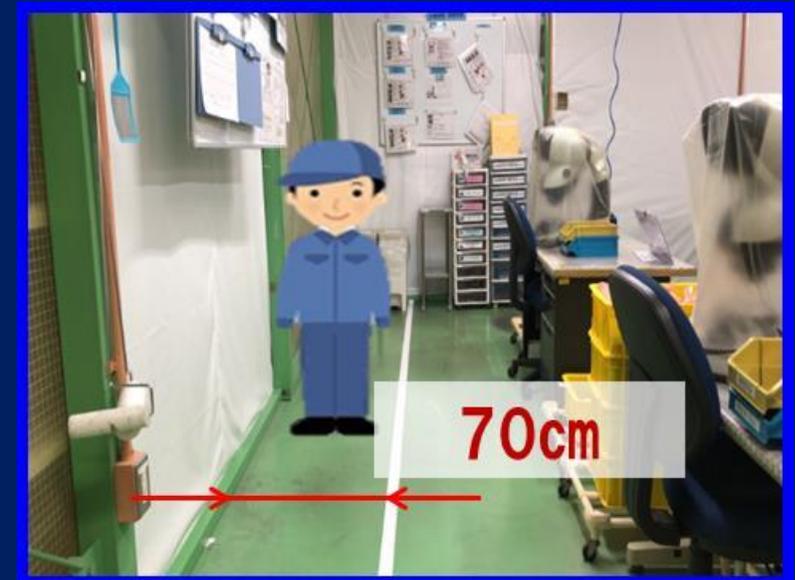
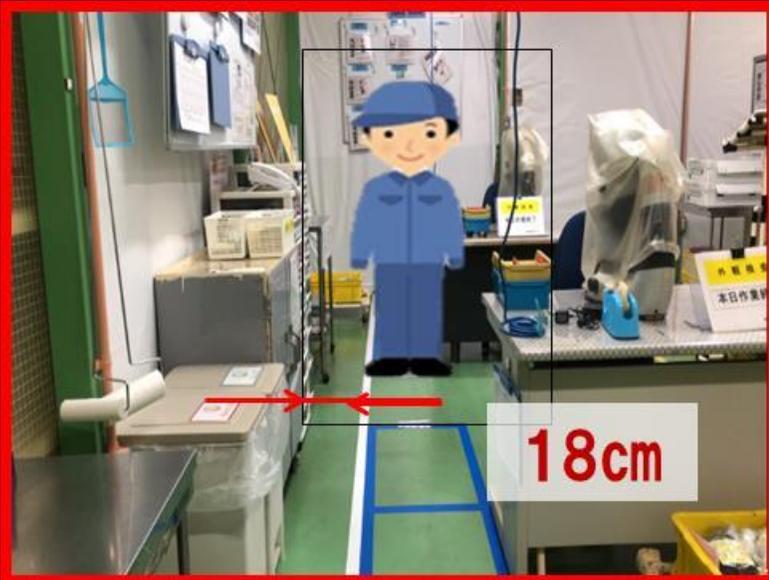
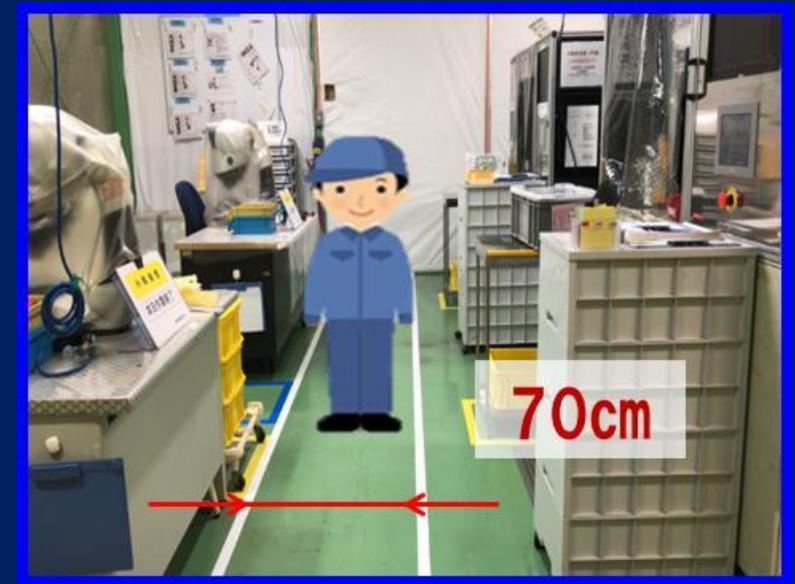
不要物を撤去し、レイアウト大幅に改善

4. 対策実施

改善前レイアウト



改善後レイアウト



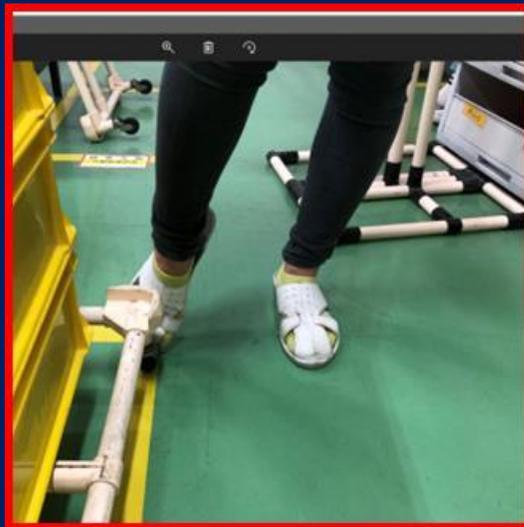
物が置かれて塞がれていた通路を大幅に広げる

4. 対策実施

改善前レイアウト



改善後レイアウト

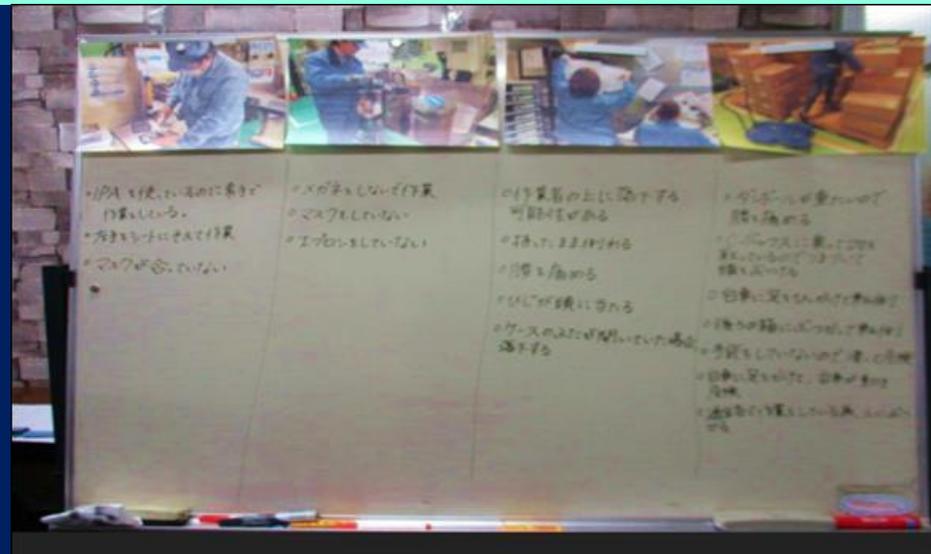


定位置に置くよう標準化し、躓き・転倒の防止

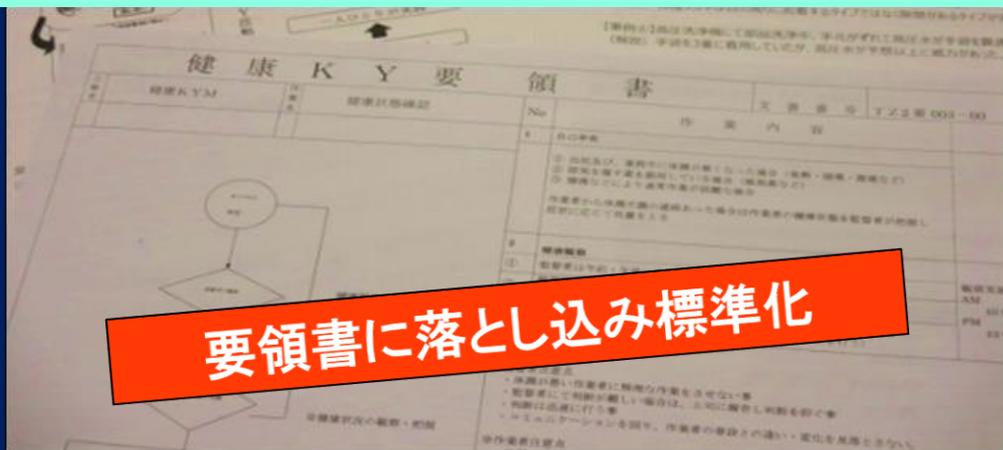
4. 対策実施

ソフト面の強化(作業教育の実施)

①現場の工程写真を使用しKYT教育を行う



②健康・KYT要領書を作成し、作業者にOJT教育を実施



要領書に落とし込み標準化



OJT教育による理解の強化

健康・KYT要領書を作成し、作業者にOJT教育を実施

5. 効果の確認

1.危険度診断項目

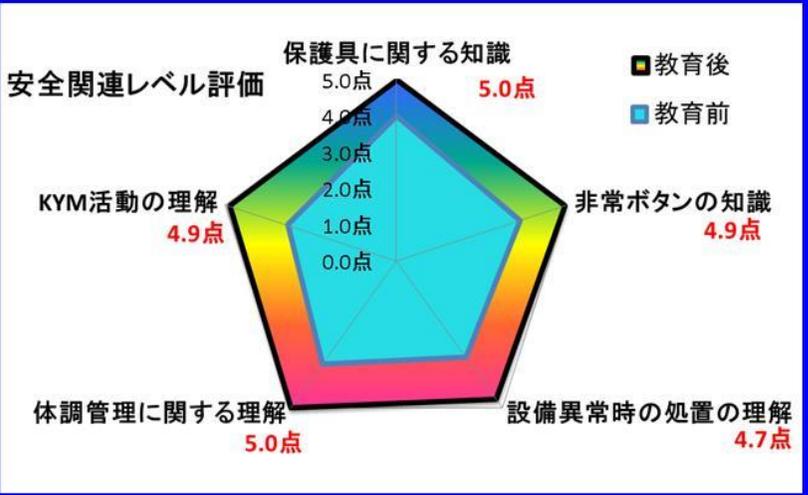
(1)けがの可能性		(2)けがのひどさ	(3)危険源へ近づく頻度	
①可能性が非常に高い (逃げられない)	6	①致命傷 (死亡、重篤)	10	①頻度が多い (何度も/日) 4
②可能性が高い (逃げられない方が多い)	4	②重傷 (身体障害等休業)	6	②ときどき近づく (1回程度/日) 2
③可能性がある (逃げられないこともある)	2	③ひどいけが (骨折・火傷等休業・不休)	3	③めったにない (1回/週) 1
④可能性が低い (逃げられないことはない)	1	④軽症 (切り傷・打撲等不休・微傷)	1	

2.危険度評価 合計点=(1)+(2)+(3)

危険度	レベル	要対策
14~20点	重度の危険	4
10~13点	高度の危険	3
5~9点	中度の危険	2
3~4点	低度の危険	1

3.記入欄

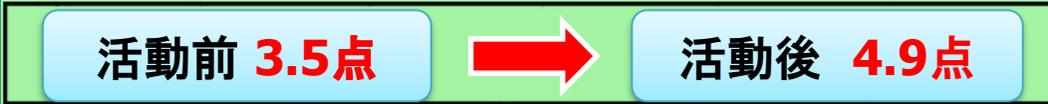
NO.	活動案	作業の内容 (危険源の内容)	リスクの内容	けがの可能性	けがのひどさ	危険の頻度	合計点	優先順位	対策内容
1		検査工程	躓き・接触・転倒	1	1	1	3	Good!!	レイアウト改善
2		ロール工程	挟まれ・巻き込まれ	2	1	1	4	Good!!	教育(非常停止、危険体験等)
3		洗浄工程	洗浄工程で頭をぶつける	1	1	1	3	Good!!	
4		通路	接触・転倒	1	1	2	4	Good!!	視覚表示(点灯表示・見える化)等



リスクアセスメント危険度



安全関連レベル評価



リスクアセスメント・安全関連レベル目標達成

